

# 野辺地西高旧五戸高に移転

## 県、土地・建物無償譲渡へ

五戸町の若宮佳一町長は28日、県庁を訪れ、2022年3月に閉校した県立五戸高校の土地と建物の無償譲渡を宮下宗一郎知事に申請した。譲渡が決まれば、町は校舎などを学校法人光星学院(八戸市)に無償で貸し付ける。複数の関係者によると、同法人は八戸学院野辺地西高校(野辺地町)を五戸高校跡地に移転する方針。五戸町と同法人が29日に記者会見し、高校開設

について説明する。無償譲渡の申請書を受け取った宮下知事は「県としても譲渡する方向で考えている。新たに五戸に高校が誕生することは、われわれとしても非常に喜ばしい」と語った。県は活用計画の公共性や公益性を確認した上で、譲渡を正式に決める。

若宮町長は報道陣の取材に「どのような支援ができるか考えながら、学校運営を見守りたい」と述べ、施設改修などに町が費用面で協力する可能性を示した。開校時期については、法人側に聞いてほしい」と述べるとどめた。光星学院の担当者は「五戸町主導で進めていることなので、現時点で詳細は言えない。29日の記者会見で説明する」とした。

野辺地西高校は昨年6月、入学者減少や校舎老朽化などを理由に、八戸学院光星高校(八戸市)に統合する案を示したが、保護者から反発が相次いで白紙撤回した経緯がある。旧五戸高校への移転に関し、野辺地町の野村秀雄町長は本紙などの取材に「大変残念。(町と)50年の付き合いが



五戸町が県に無償譲渡を申請した旧五戸高校の校舎

あって卒業生も多だけに、寂しい思いがある。ただ、一法人の決定なのでやむを得ないと受け止めている」と話した。五戸高校は1928(昭和3)年、前身の町立五戸実業公民学校が、五戸尋常高等小学校に併設されて創立した。閉校までの93年間の卒業生は累計1万1890人。サッカー部はインターハイに11回、全国高校選手権に14回出場し、1986年の同選手権でベスト8に進んだ。県立高校跡地への私立高校進出は、2023年3月に閉校した鶴田高校の跡地に、五所川原商業高校(現下山学園高校)が移転した例がある。(本紙取材班)